

# 令和7年度 施政方針

総合政策課 ☎ 65 - 1210

2月25日、第1回市議会定例会で、古川市長は令和7年度施政方針および予算提案説明を行いました。「施政方針」とは、市政運営に向けての基本的な考え方と主な施策を示すものです。今月は、この施政方針の一部と新年度予算の概要を紹介します。

## 令和7年度の基本姿勢

### 「ひと・もの・かね・しくみの4つの資源を磨き上げる」

刻々と進む人口減少や少子高齢化などの社会環境の変化に対する危機感があります。

新年度においては、「ひと、もの、かね、しくみ」の4つの資源を適正に管理し、配分していくことを常に意識し、市政運営に取り組んでいきたいと考えています。

まず、「ひと」は、人づくり、組織づくりです。専門的知見を有する外部人材や民間組織などとの連携を進めるとともに、市職員の政策立案能力を高め、まちづくりを担う地域人材の育成を図る他、スピード感を持った効率的な施策の執行に資する体制を検討します。

次に、「もの」は、市が所有

する公共施設などです。今後の維持管理や更新などの経費投入においては、社会基盤となるインフラ施設も含め、行政区を越えるエリアで俯瞰し、中長期かつ多角的な視点で真に必要な財産を見極め、新市民文化センターの建設も含め、次世代に過度な負担を残さぬよう、これからの本市と地域の発展に貢献できる公共施設機能の可能性と保持、再編を検討します。

また、「かね」は、安定した財政基盤づくりです。先ほど述べました公共施設の適正化、そして、効果検証も含めた事業の優先順位づけや取捨選択の精査を進めますが、費用対効果のみにとらわれるのではなく、市民

に寄り添う姿勢も忘れずに検討します。加えて、多様な財源の確保に積極的に取り組み、歳入および歳出マネジメントの強化を図り、発展と継続を両立できる財政構造の構築に向け、粘り強く取り組みます。

そして、「しくみ」については、デジタル技術の活用や市民サービスの向上につながる業務改善はもちろん、行政による情報の発信および共有の強化に取り組み、より多様な主体の行政参画を促すことで、多面的な視点に基づく地域課題へのアプローチや政策立案が可能となる仕組みづくりを検討します。

私は、これからの行政に必要なとされるキーワードは「適応

力」だと考えています。「ひと、もの、かね、しくみ」の4つの有形無形の資源の磨き上げを通じて、自己変革力を養い、新しい時代に適応できる市政運営を目指します。

そうした思いも込め、新年度を、「未来につながる土台づくりの一年」と位置づけ、これからの新居浜市の歩み、これから歩むべき道のりを再確認し、それらをアップデートし、未来へと踏み出す節目の一年にしていきます。



施政方針  
全文はこちら

# 未来につながる土台づくりの一年に

第六次新居浜市長期総合計画に掲げる6つのまちづくりの

目標ごとに、今年度実施する主要な事業を紹介します。

ここでは施政方針から内容を抜粋して掲載しています。

## 目標1 未来を創り出す子どもが育つまちづくり

- ▼令和6年度に開設した「こども家庭センター」を中心とした相談体制の充実
- ▼家事や子育てなどの支援を行う子育て世帯訪問支援事業や多胎妊産婦世帯を対象とした家事代行サービスの提供
- ▼県と連携し、先天性疾患の早期発見、早期治療を目的とした拡大新生児スクリーニング検査を開始
- ▼不登校生徒への支援の充実を図るため、校内サポートルームの設置校を1校拡充
- ▼小・中学校の適正規模、適正配置などに関する基本計画に基づき、既存施設の計画的な長寿命化対策を実施（今年度は金子小学校校舎北棟の改築に着手）
- ▼小・中学校体育館への空調設備設置に向けた設計業務に着手

- ▼保護者の負担軽減を図るため、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、給食費の一部助成を実施

## 目標2 健康で、いきいきと暮らし、支えあつまちづくり

- ▼保健福祉Maas車両を活用した健康相談などの実施やオンライン診療の検討、KENP O Sアプリを活用した健康づくり、ウオーキングの推進
- ▼障がい児通所支援の充実、障がい児を育てる家庭へのサポートなど、障がい児支援体制の整備拡充と適切な運営
- ▼高齢者の生活支援および社会参加の促進を図るため、在宅で生活する65歳以上の難聴高齢者を対象に補聴器購入費補助事業を開始

## 目標3 活力とにぎわいにみち、魅力ある職場が生み出されるまちづくり

- ▼住友各社との更なる連携深化
- ▼時代のニーズに合った補助制度とするため、中小企業振興条例および企業立地促進条例の見直しを実施
- ▼「仮称にはま版営業本部」を設置し、市長のトップセールスによる積極的な情報発信・販路開拓を実施
- ▼新居浜太鼓祭りや別子銅山の歴史などを活用したプロモーション、本市への誘客を図るため、日本国際博覧会(大阪・関西万博)に、本市の太鼓台3台が出場



上部地区山根グラウンド統一寄せ

## 目標4 安全・安心・快適を実現できるまちづくり

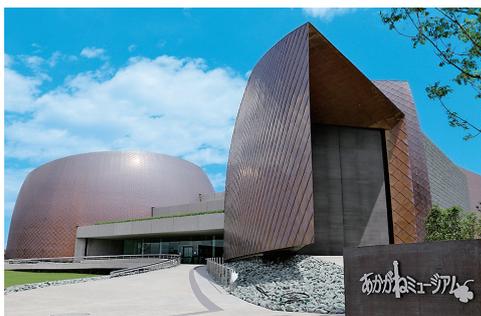
- ▼滝の宮公園の管理棟整備
- ▼「国道11号新居浜バイパス」船木から東田一丁目までの工区の早期開通要望と事業推進
- ▼「上部東西線」、「宇高西筋線」の事業推進
- ▼次期「新居浜市公営住宅等長寿命化計画」の策定
- ▼新居浜港の利便性向上や、脱炭素化を目指し、新居浜港港湾計画の見直しを実施
- ▼民間企業との連携なども含めた避難所の備蓄物資拡充
- ▼災害復興期に迅速な生活再建支援を行うため、家屋の被害認定調査をデジタル化し、罹災証明書<sup>りさいしよ</sup>を速やかに発行するための事業検討
- ▼「新居浜市地域公共交通計画」を踏まえたデマンドタクシーの充実、バス路線の再編
- ▼南消防庁舎の新築移転を進めるとともに、災害情報の一元化と高度な相互応援による災害対応力の向上のため、愛媛県予東部消防指令センターを併設

**目標5** 人と地域ので豊かな心を  
育み、つながり、学び合う  
まちづくり

▼開館10周年を迎えるあかがねミュージアムでの記念特別展の開催

▼県内初となる「日本スポーツマスターズ2025愛媛大会」の開催、運営を通じ、スポーツの推進を図り、地域の魅力を発信

▼東雲競技場や市営野球場などの既存施設の機能の向上と計画的な改修



あかがねミュージアム

**目標6** 人と自然が調和した快適に  
生活できるまちづくり

▼清掃センターの粗大ごみ処理施設およびリサイクル推進施設の延命化工事の実施

▼ごみ焼却施設について、これまでの西条市との調査、協議を踏まえ、今後の具体的な整備内容の検討

▼上・工・下水道事業一体でのウォーターPPPの導入など、官民連携への取り組みを強化

計画の  
推進  
の推進  
持続可能なまちづくり

▼「新居浜市シティブランド戦略」に基づき、市民が誇りと愛着を  
持てるまちを目指すとともに  
大都市圏でのシティプロモーションを実施

▼新たに、本市の取り組みや魅力を  
広くPRするため、広報効果  
の高いテレビ放送を活用した  
広報番組の制作・放送を開始

▼新居浜市総合戦略の内容を第  
六次新居浜市長期総合計画と  
一体化する形で、長期総合計画  
の中間見直しを実施

施政方針の最後に

本年4月には、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、人類共通の課題であるSDGsの達成に向けた国家プロジェクト「大阪・関西万博」が、いよいよ開幕を迎えます。

本市においても、世界の人々に広く発信できる機会と捉え、1970年の大阪万博以来、55年ぶりとなる新居浜太鼓台の派遣を通じ、本市の魅力発信に努めます。

また、住友グループが展覧する「住友館」では、本市に保有する「住友の森」の樹木の活用や、別子の山々のシルエットに着想を得たパビリオンの整備が進められたと伺っております。

別子銅山の時代から脈々と受け継がれる住友グループの事業精神と困難を乗り越えた先人の偉業に触れることで、今後の市政運営やまちづくりに対する多くの示唆を得ることができると、私は強く感じております。



不透明な時代において、本市を取り巻く現状も内憂外患と言え、市民の夢に、私達の夢を重ね、市民の幸せが私達の幸せ」となれる様に、行政、議会が一体となってまちづくりを進めるためには、これまで以上に、街を構成する各団体が、分野や業種の枠を超えた連携を積み重ねていくことが、極めて重要となります。違いを排除し、対立を深めるのではなく、対話を育み、新たな行動規範を整え、意見や立場の違いを乗り越えていかなければなりません。

市民の皆様におかれましては、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



# 新居浜市の財政

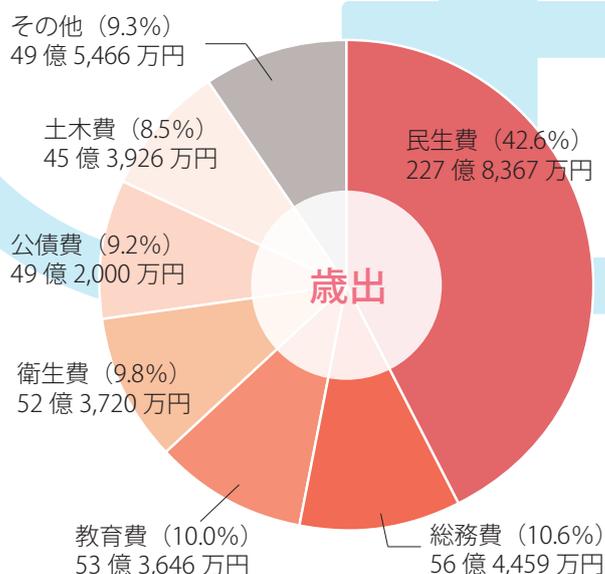
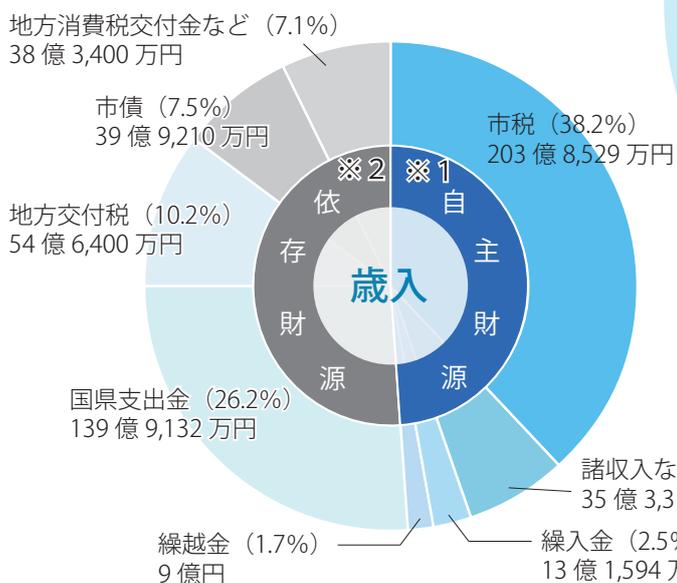
財政課 ☎ 65-1220

## 令和7年度予算

令和7年度の一般会計当初予算は、歳入、歳出それぞれ **534億1,584万円** となっており、昨年度と比べると19億5,966万円、約3.8%の増額となっています。なお、国民健康保険事業、介護保険事業などの5つの特別会計272億1,660万円、水道事業や公共下水道事業など3つの企業会計129億4,337万円を合計した新居浜市全体の予算規模は、935億7,581万円となっています。



当初予算の詳細はこちら



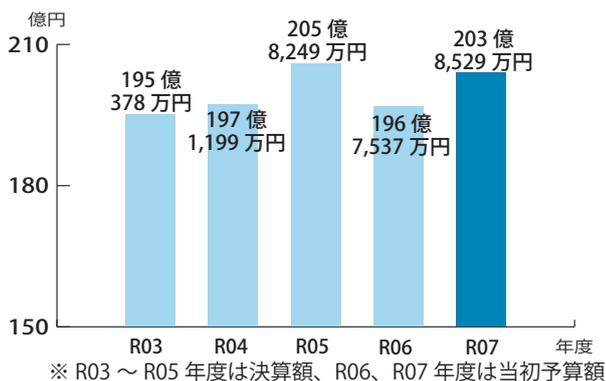
### 用語解説 (※1、※2)

- ▶ 「自主財源」とは、市が自主的に調達することができる収入のことです。
- ▶ 「依存財源」とは、国や県の基準に基づき交付されたり、割り当てられたりする収入のことです。

### 特別会計の当初予算額の前年度比較

	令和7年度①	令和6年度②	増減額①-②
渡海船事業	1億8,941万円	1億8,780万円	161万円
平尾墓園事業	2,626万円	2,896万円	△270万円
国民健康保険事業	113億8,991万円	118億4,747万円	△4億5,756万円
介護保険事業	132億8,122万円	140億1,692万円	△7億3,570万円
後期高齢者医療事業	23億2,980万円	23億3,432万円	△452万円
合計	272億1,660万円	284億1,547万円	△11億9,887万円

### 市税収入の推移



#### 市民税

定額減税終了分および法人税の増加見込みなどにより10.1%増

#### 固定資産税

償却資産の減少見込みなどにより0.3%減

#### その他

市たばこ税の減少見込みなどにより1.1%減

## 新居浜家（市）の家計簿＜年間予定＞

本市の令和7年度の一般会計当初予算を **1万分の1のスケール**で、新居浜家の家計として家計簿（年間計画）を作成しました。

収入の大半を占める給料（市税など）は332万円で、親からの援助（国県支出金）が140万円です。前年度に残ったお金（繰越金）が9万円の見込みの他、貯金を13万円取り崩し（繰入金）、40万円の借り入れ（市債）をした結果、

534万円の収入となります。

これらの収入のうち、医療費や教育費（扶助費）に147万円、ローンの返済（公債費）に49万円、食費（人件費）に86万円、光熱水費・通信費など（物件費）に82万円、増改築（普通建設事業費など）や保険料（補助費など）などで170万円を使う予定としており、支出の総額は534万円となります。

新居浜家（市）		の家計簿（年間計画）	
収入		支出	
給料【基本給】	239万円	医療費や教育費	147万円
給料【諸手当】	93万円	ローンの返済	49万円
親からの援助	140万円	食費	86万円
貯金取り崩し	13万円	光熱水費・通信費など	82万円
前年度に残ったお金	9万円	増改築など	70万円
借り入れ	40万円	保険料や税金など	49万円
		仕送り	50万円
		貯金	1万円
<b>収入合計</b>	<b>534万円</b>	<b>支出合計</b>	<b>534万円</b>

### 当初予算の重点事業

#### 子ども・子育て支援の強化

出産世帯応援給付金支給事業費	1億802万円
子育て世帯訪問支援事業費	156万円
学校給食支援事業費	5,863万円
サポートルーム活用事業費	607万円

#### 災害と危機管理に強いまちづくり

小・中学校体育館空調整備事業	8,750万円
防災用品備蓄費	794万円
民間木造住宅耐震改修補助事業費	2,760万円
南消防署及び消防指令センター整備事業	3,148万円